

# 宮城県塩釜高等学校におけるオンラインによる国際交流の事例

## その他【東日本大震災被災地の高校生への支援】

平成23年3月11日に起きた東日本大震災で本県を含めた被災地は未曾有の被害を受けた。その様子は世界中に報道され、オランダ王国アムステルダムにあるアムステルダム国際学校 (International School of Amsterdam;以下ISA)では、震災直後から生徒の発案による募金活動等で日本の被災地支援を継続して行ってきた(Japan Earthquake Relief)。震災から10年が経過し、ISAの生徒から募金による支援活動ではなく、被災地の高校生と直接交流することで「姿の見える」支援活動が発案された。現地在住の日本人(仙台市出身)の仲介により本校を紹介され、両校の交流希望生徒がGoogle Meetを使って英語で学校生活や自身の好きなことなどについて情報を交換した。

### 【プログラムの内容】

- 第1回 参加生徒の自己紹介及び塩釜高校と鹽竈神社の紹介
- 第2回 ISAの高校生活について、英語の勉強の仕方について
- 第3回 部活動について、将来の夢と希望について



### 【工夫した点】

- ISA側は11年生(高2)の日本語授業選択生徒7名、本校側は2年生の希望生徒2名で英語で交流した。
- ISA側は昼休みに日本語授業の教室で、本校側は時差の関係から夜に生徒の自宅でパソコン・スマホで交流した。
- 本校希望生徒の保護者には夜の時間帯に自宅でスマホで交流することを管理職が説明し、承諾を得た。

### 【今後の課題】

- 本校ではこれまで国際理解教育のノウハウや蓄積がなかったために、実施前は交流を躊躇した。国際交流を始めたり、継続するには英語科教員の参加が必要なので、学校全体で共通理解を深めて取り組むことが必要である。

### 【経緯】

令和3年11月	ISA日本語科担当教員より交流の打診。本校担当者を決め、メール・Google Meetで互いの交流希望等を調整した。
令和3年12月	本校で交流希望者を募集し、高2生2名が応募。保護者への説明と交流の承諾を得た。
令和4年1月	第1回目交流実施 Google Meet を利用。本校生は自宅でスマホを使用して実施した。
令和4年3月	第2回から3回目の交流実施。当初はさらにもう1回実施予定だったが、本校教員の都合により実施できなかった。